様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	社会系コース／齋木　哲郎

■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教育大学教員としての授業実践

本学の目的は，豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し，学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには，教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が，学校現場の実践と関連性が保たれていることが必要である。あなたは，教員養成大学の教員として，本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか，これまでの取り組み状況を総括し，具体的に示して欲しい。

1．目標・計画

本年度に限らず、私はこれまで大学の授業と学校現場での授業を関連づけるために、学校現場で教えられている内容を、より具体的に分かり易く、かつまた教える際のポイントはどこか、それはどのように教えたら学生達に理解されるのか、との指導法の伝授にまで気を配って授業を行ってきた。これまで通りの授業に更なる工夫を加え、学生が私の授業を自身の授業に活かし得るようにするための授業の展開に努めたい。

2．点検・評価

構想通りに授業を進めることができた。講義に関しては、講義内容の全体とそれを構成する細部の小概念の関係を把握させることで、受講者自身が自分の言葉で講義内容を再構成することが出来ていた。その点は試験答案からの判断である。もう一つ、欲を言えば、受講生自身が中国の思想に興味を持って、その意味で欲を出せる授業の展開も工夫したい。

また、演習は当初これまでのように漢文の訓読法と中国語による音読法を併用する形態をとったが、今回は中国からの留学生が居なかったことから途中で止めた。年々受講生の数が増え、学生の読解力が著しく向上している。指導方法は例年通りである。おそらく、漢文に対する恐れがなくなり、逆に興味が出てきたのではないかと推測できる。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

従前通り、学生の学習指導・生活指導に励む。昨年度までは社会系コース23年度卒業生の担任として生活や就職の相談に携わってきた。今年度以後は、そうした負担が軽減されるから、その分留学生、就中私の研究領域と大いに係わりのある中国からの留学生の就学・生活支援に当たりたい。

２．点検・評価

学生との応対は概ね授業や留学生との会話練習を中心とした。授業では、学生達からは知識に関する質問を受けることが多く、それに答えてきた。そうした中で今回特に特徴的であったのは、学部開講の「哲学・倫理学特論」でコース外の学生も含め履修者が増えたことで、彼等は概論での話をもっと聞きたいとということであった。一応の成果と見なしえよう。また、中国人留学生との会話は私にとって大変有効で、以後の授業で中国語も用いることを考えさせてくれている。

Ⅱ－２．研究

１．目標・計画

これまでの作業の継続として、学位論文の『唐宋新春秋学の研究』の補完と出版の準備を進めたい。また、昨年度より開始した新しい研究領域の開発として、後漢期の儒学に対するトレンチを進めるつもりである。

これまで同様、海外（中国中心）での研究発表を積極的に行い、斯学の発展、ひいては大学間の国際交流にも一役にないたい。

２．点検・評価

『唐宋新春秋学の研究』（１頁当たり1600字×614枚、ただし本論のみ）を完成させた。また「『白虎通義』と後漢の経学」（１頁当たり1600字×30頁）・「何休における「三科九旨説」の成立とその諸相」（１頁当たり1600字×32頁）・「王符の『潛夫論』―社会批判としての儒教―」（１頁当たり1600字×20頁）を完成させた。いずれも未発表である。論文の方は、近年開始した研究「後漢の儒学」の一部分である。

中国から国際学会への招聘を2度受けた。が、いずれも、私に対する割愛の状況を知らされず、また私が断ったという虚偽の報告がなされたため、私自身身動きがとれず、参加できなかった。

Ⅱ－３．大学運営

１．目標・計画

与えられた職責を果たすということにつきる。また昨年度と同様、大学内に残る犯罪化の傾向に適切に対応し、これを阻止したい。

２．点検・評価

今年度も、私に対する割愛を、私に知らせずに、私が断ったということにして、潰すという犯罪が本学ではなされてきた。なぜそういう犯罪が、例年本学で行われ続けているのかというと、私はここ数年日本道教学会の推薦で日本学士院受賞者に選ばれているが、本学ではこれまで私に対する受賞許諾通知を受け取りながら私に示すことをせず、潰し続けてきた。その事実が明るみに出ないように、私の黙殺を謀ってのことである。

こうした事実を大学の内外に知らしめ、大学が更にその凶悪の様相を深めてゆかないよう努めてきた。また今後もそうする必要がある。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

日本道教学会の理事、中国出土資料学会理事というのが、学会での私の役職である。そこでの職務は概ね会の運営に関する審議、投稿論文の査読、学会賞の選考等である。これらの職務を忠実にこなしてゆく。
また、国際交流については、国際学会での研究発表を通じて図りたいと思う。

2. 点検・評価

学会での活動は、学会規則に則って行ってきた（例えば、日本道教学会では運営や学会賞論文の推薦。中国出土資料学会では学会の運営）。中国から中国福建師範大学で開催された「黄寿祺教授誕辰百年記念暨中国易学思想研討会」への招聘、また中国武漢大学で開催された「第3回日中学者中国古代史論壇」への招聘を受けた。いずれも、私自身の割愛が本学の手で潰される事態が生じ参加できなかった。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）

日本学士院賞の受賞許諾通知が本学になされたが、私自身には伝えられなかったことから、潰れてしまった。犯罪を止めろ。